

平成30年度 事業報告書

資料1-1

報 告 日		平成30年12月13日		担 当 者		森 俊彦	
事 業 名		家族介護教室					
事業計画カテゴリ		3. 社会的要請課題事業					
目 標・目 的		超高齢社会を迎え、介護を必要とする人が大幅に増え、介護する家族の負担が増大している。介護は日々の積み重ねであり、介護者も介護される方もさらにこれから介護について学びたい方を含め、身体に負担をかけない持続可能な介護技術を学ぶ機会とする。					
日 時		平成30年12月12日（水）10時～12時					
場 所・会 場		香川公民館 講義室					
講師・指導・協力者		株式会社ニッショウ 本店営業所所長 鈴木善俊、福祉用具専門相談員 山崎大輝、サポート 吉田淳 ニッショウスマイルステーション 生活相談員 健康運動指導士 山口翼、ヘルパー 鈴木美波、同 山中恭子 計6名					
報 償 額		5,000円 *高齢福祉介護課予算より		支払い方法		☐ 口座振込 ☒ 現金(資金前渡)	
対 象 者		現在介護をしている方、これから介護を学びたい方		定 員 数		15名	
				実績人数		11名	
材 料 費		0円		材料費用途			
概 要		健康運動指導士より介護を予防する体操の紹介と実践を30分程度行い、休憩を挟み福祉用具（ベッド、車いす）の基本的な使い方を学び、その後ヘルパーより体位変換、ベッドから車イスへの移乗の実践を行った。体位変換の仕方、ベッドから車椅子への移乗方法は実際に介護側だけでなく、介護される方の立場を経験した。 介護を学ぶ方にとっては体位変換やベッドから車椅子への移乗、介護される方が快適になることを実感していた。 なお、介護予防体操は初めて実施した。					
成 果		本講座は市高齢福祉介護課との共催事業として開催した。 受講者は、現に介護中の方は少なく、介護していないけれど将来に向けて受講した方が多かった。 29年度の反省を踏まえ（福祉用具の使い方の時間は短く、実践を多く取り入れる）、介護の基本、介助等技術的なことについて習得でき、現に介護をしている方も自分勝手にない理にかなった介護法を実感できた様子であった。特にヘルパーの指導がわかりやく対比（負担の大きい介護法、負担の少ない介護法）して示し、なおかつ受講者がその2つのやり方を実践し受講者の理解がより深まった。 介護術によって介護される方が心地よさ・快適さが異なることなど受講者が今後に生かせる講座となっている。 冒頭おおまかなタイムスケジュールを示したので、参加者は次に何を行うかを理解しながら、受講できたと思う。なお、介護予防体操を取り入れ、スムーズな導入となり、好評であった。 講師はサポートを含め、6名と手厚く行った。					
自己評価							
Ca							
事業に係る 課題・反省点		当初、「グループワーク」を通して、介護している方の悩みや迷いなどをお互いに出し合ったなかで、生活相談員やヘルパーからのアドバイスを入れながら進める予定であった。しかし、現に介護している方が少ないので、グループワークはせず「質疑応答」の時間とした 講師についてもヘルパーの実践的な講義が一番参加者が熱心に集中していたが、その時間がより欲しかった。 その分、時間超過のなかヘルパーには、個別での相談をしていただいた。 今後、市高齢福祉介護課、公民館で31年度に向け参加者確保を課題にしながらも実施する方向で一致した。 進行方法、講義内容についてより改良されているが、内容（ボリューム量）に比し、時間が欲しいところの調整が必要と感じた。					

そ の 他

市高齢福祉介護課との共催事業にて実施した。
役割分担としては、主にチラシ作成、募集、会場確保・設営、アンケート作成・集計は香川公民館、講師選定（折衝）は高齢福祉介護課とした。

成果欄 自己評価 評価基準	
定員に対する評価	内容に対する評価
A：定員以上の申し込み	a：充実。次につながりそう
B：定員の8割以上	b：充実。次へのつながりはない
C：定員の半数以上	c：やや不十分。
D：定員の半数以下	d：内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-2

事業報告書

報告日

平成30年12月12日

担当者

鈴木 弘子

事業名	「スマイリングままサロン」フォロー				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	開催終了事業「スマイリングままサロン」は産後まもない母親の心身のケアと母親同士の交流を目的に行われたがせっかくの交流の機会を十分に生かしきれなかったため、再度交流の場を設け母親同士のつながりを作り、交流が続くようにする。				
日時	平成 30 年 12 月 11 日 (火) 10 時 00 分～ 13 時				
場所・会場	香川公民館 保育室				
講師・指導・協力者					
報償額	(詳細裏面)	支払い方法	☐ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	スマイリングままサロンに参加した親子	定員数	12名	実績人数	9名 他こども10名
材料費	750円	材料費用途	お弁当代 (収支報告裏面)		
概要	開始時間よりも前に来ていた参加者はすぐに会話が弾みだしていた。全員そろったところで2人ずつペアになり、1分ごとにペアを替え、夫の良いところを紹介しあう。その後、先日のスマイリングままサロンで行った運動を軽く思い出しながら行ってみるが、よく覚えていない、家では全然やらなかった、などと言いながら笑いが出ていた。その後は自由な会話の時間にする。				
成果	スマイリングままサロンの参加者12名に呼びかけ、9名の参加があった。皆、この企画を喜んでいて、参加できない人からは残念がる声もあった。スマイリングままサロンで身体を動かしたのは体が楽になったのは勿論の事、気持ちもリフレッシュしたのはよかったので、また行って欲しいという意見が多かった。その意見も聞きながらも、サークルを作り、活動する方法もあることを伝える。 今回は交流ということで食事をしながらおしゃべりを楽しむことを目的としたが、それぞれが話し相手を自然と変えながら会話が弾む。 最後にはラインの交換をしながらグループを作ることも提案されていた。				
自己評価	Ba				
事業に係る課題・反省点	育休中の参加者が4名いた。同年代の子どもを持つ母親と知り合う機会がないので、このような機会はうれしいとのことだった。様々な事業を企画する中で、参加者同士のつながりを作ることを目的にしていることが多いが、つながりを作ることは、事業を開催する中でどのようにフォローしていくかが重要だと思う。今回の企画で参加者がどのようなつながりが出来ていくか、様子を見ていきたい。 サークル活動のことはとても興味深そうに聞いていたが、1才未満の子どもも実際は難しいことなのではないかと思われる。そこを手助けできれば子育て支援にもつながるのだと思う。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 3 0 年 度

資料1-3

事業報告書

報告日

平成 30年12月18日

担当者

鈴木弘子

事業名	しめ縄リースを作ろう				
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業				
目標・目的	しめ縄リースの材料の藁や水引、紙垂などの意味、言われなどを知り、日本の伝統のお正月について学ぶ。 経験が少なくなっている手仕事をして、作品を仕上げ達成感を味わう。				
日時	平成30年12月8日(土) 9時15分～ 12時				
場所・会場	香川公民館 集会室大				
講師・指導・協力者	小山田(林) 紀子さん(衣服作家 デザイナー)				
報酬額	5,000円 (詳細裏面)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	小学生(保護者参加可・4年生以下は保護者同伴必須)	定員数	12名	実績人数	12名
材料費	600円	材料費用途	藁、水引、和紙、ビニール袋等		
概要	日本の伝統のお正月、しめ縄の由来や水引、紙垂など材料のでき方由来等、話を聞きながら作業が進める。 藁のクズの部分を取り除き、柔らかくするためにビニール袋に入れ水分を加え、しばらくしてから、叩いて柔らかくするその間に紙垂や水引を作る。藁が柔らかくなったら2,3人できょうかし、藁をよる。 撚った藁を成形してリースに作り上げる。				
成果	参加者は、部屋にはいるとすぐに、準備してあった藁を興味深そうに、すぐに手に取って見ていた。藁や水引等、見る機会はあるけれども、その意味については聞いたことはなかったと、保護者がとても関心を示していた。 保護者よりも子どもの方が力があるので、上手く藁を撚れたり、水引の結び方を覚えたりする様子も見られ親子での苦戦の様子が微笑ましくもあった。				
自己評価	Aa				
事業に係る課題・反省点	親子で一緒にひとつの作業をして物を作り上げていくという経験が少なくなっているのではないかと 思われる昨今、今回のような手を使っての地道な作業が後になって親子の会話の話題づくりのにもなる のではないかと思われた。子どもだけの事業でこどもの世界を経験するのもよいが、親子で、ちょっと 難しい課題に挑戦するのもよいことだと思った。				

そ の 他

材料費が600円だったので、100円返金する。

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-4

事業報告書

報告日

平成30年12月20日

担当者

山田 重乃

事業名	日本の歳越し ～しめ飾りづくり～				
事業計画カテゴリ	4. 地域交流事業				
目標・目的	伝承文化の1つであるしめ飾りづくりで、年越し行事を次世代に伝えていくのを目的とする。しめ飾りの技術を持った講師の育成も兼ねる。さらに、慣習や文化の経験豊かな方が、地域の人たちに伝えていくことにより、交流が深められ人と人の結びつきの場の提供。				
日時	①平成30年12月15日（土）10：00～12：00 ②16日（日）9：00～13：00				
場所・会場	香川公民館 保育室 テラス 講義室				
講師・指導・協力者	三澤 努さん（寒川町盆栽会相談役） 浜田 幸雄さん（木工細工講師） 真保 忠治さん（県立里山公園クラブ員） 三澤 錦子さん 小島 賢造さん 井上 幸雄さん（香川地区推進協） 南上 弘志さん 協力者：（前準備紙垂づくり作業）菅沼松江さん 亀山公子さん				
報 償 額	¥56,000 （詳細裏面）	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金（資金前渡）		
対 象 者	小学5年生以上	定 員 数	20名	実績人数	21名
材 料 費	¥500	材料費用途	ウラジロ・橙・紙垂・紙エビ 麻ひも・ビニール袋・サランラップ （収支報告裏面）		
概 要	【15日（土）】 藁すき、藁たたき、垂紙、紙エビ作りの前準備作業を、15名を3班に分かれローテーションで体験。 （午後より講師と公民館担当者で、ユズリ葉の採取と各工程サンプル作りと編み方の再確認。） 【16日（日）】 始めに完成までのプロセスを現物を提示して説明してから、作業にはいった。工程ごとに区切り参加者の進捗状況が揃うように講座を進め、わからない人には個別に指導し全員完成することができた。その後、お飾りの付け方（ウラジロ、橙、ユズリハ、紙かざり）を説明し、最後に全員で清掃を行い、お飾りセットを渡し解散とした。				
成 果	・司会進行1名＋講師5名の計6名で指導に入ったため、丁寧な指導ができ参加者の満足度も高い。 と、同時に後継者のスキルアップも行え、指導の力量を上げることができた。 ・編むためにワラの前準備が必要なことを体験でき、日本の稲わら文化を学び、興味をもつことができた。 ・再参加が増加傾向にあるので、講座満足度が高いと考える。				
自己評価	Aa				
事業に係る課題・反省点	・里山公園（藁調達先）とのパイプ役講師の都合により、藁準備と確保が曖昧になり、引取りも公民館職員のみで伺ったため、例年より少量であった。そのため藁不足の心配が従来通りワラの調達先を里山公園にお願いしていくと同時に、他をあたっていくことも必要である。また、公民館主催事業で「お米をつくる」で、餅米の耕作も可能かどうか提案していきたい。 ・前日作業（藁すき、藁たたき、紙かざり）が効率的に行えていない。次年度も前作業を参加者に体験するようなら、方法を再検討する必要がある。 ・参加者の中からお手伝いできる方に声かけし、講師後継者の地盤固めをさらに続けていくことが課題である。 ・リピーターが増加傾向にあるので、対象者を限定（EX：初めての方、中高生等）することも検討したい。				

そ の 他

【講師謝礼】

三澤 努 さん¥8,000
 浜田 幸雄さん¥8,000
 真保 忠治さん¥8,000
 三澤 錦子さん¥8,000
 小島 賢造さん¥8,000
 井上 幸雄さん¥8,000
 南上 弘志さん¥8,000
 (合計 ¥56,000)

【材料費収支明細】

収入：材料費@500×22名=¥11,000
 支出：ウラジロ64枚 橙32個（有限会社 星のフラワー）¥8,640
 個装ビニール袋（株式会社マルエツ）¥1,017
 紅白画用紙 麻ひも ビニール袋小（三澤さん）¥1,343
 ＊ウラジロ用サランラップは昨年の残りも使用。
 残金：¥0

【県立里山公園稲わら譲渡日程】

平成30年5月講座開催の連絡と稲わら願いを郵送。
 平成30年9月10日里山公園へ譲渡申請書を郵送。
 平成30年11月29日公用車にて職員、嘱託の2名で受け取り。（AT：西村さん）

【道具借用】

藁すき：浜田講師 公民館職員
 たたき一式：三澤講師
 高枝ばさみ：三澤講師

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-5

事業報告書

報告日

平成30年12月20日

担当者

鈴木 弘子

事業名	かめさんのおうち 12月				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	地域における子育て環境は、必ずしも十分だと言えない状況にある。こうした状況の中、地域の家庭教育学習の拠点として公民館の充実が期待されている。 子育ての悩みや不安を一人で抱え込まないよう身近で気軽に利用できる支援の場をつくり、さらには地域との接点の場所として公民館が活用されることを目的として開催した。				
日時	平成30年12月19日（水）10時～13時				
場所・会場	講義室・保育室				
講師・指導・協力者	香川公民館保育ボランティア 勝 圭子・江崎裕子・坂本好延				
報 償 額	6,900円 (2,300円×3名)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対 象 者	乳幼児を持つ親(保護者)とその子ども	定 員 数	40名	実績人数	子ども11名 保護者他6名 (合計17名)
材 料 費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概 要	乳幼児11名 保護者 6名 計17名 (天気:晴れ) 10時過ぎに保育園2歳児が来て遊び始める。その後11時前後になると参加者が増え始める。 ボランティアスタッフや母親同士で話をしたりと、なごやかな時間が過ぎる。 今日から男性のボランティアも参加。				
成 果	・今回からボランティアスタッフに男性が入る。保護者や子どもが違和感を感じるのではないかとの不安な意見もあったが、子ども達は男性スタッフになつき、よく遊んでいた。その子どもの姿を見る母親終始も笑顔で、時折スタッフと会話もはずんでいた。 ・保育園の子ども達が遊びにきていたので早い時間から活気づいていて良かった。				
自己評価					
	Da				
事業に係る課題・反省点	男性ボランティアが加わる事について、ボランティアスタッフが感じているリスクについて、気を付けながら、スタッフ全員が安心して、かめさんのおうちを運営できるよう、そして全員の理解を得られるよう気を付けていきたい。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

A : 定員以上の申し込み
B : 定員の8割以上
C : 定員の半数以上
D : 定員の半数以下

内容に対する評価

a : 充実。次につながりそう
b : 充実。次へのつながりはない
c : やや不十分。
d : 内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-6

事業報告書

報告日

平成31年1月9日

担当者

森 俊彦

事業名	冬休み学習室開放																						
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業																						
目標・目的	1 空き部屋の利用率を上げる。集会室小、和室 2 青少年に学習室の場を提供する。市内北部に個人で学習する場がないため。 (南部・中央部には図書館や青少年会館がある)																						
日時	冬休み期間 (12月22日～1月6日) 7日間14コマ 午前の部: 9時～12時 午後の部: 13時～17時																						
場所・会場	香川公民館 集会室小、和室																						
講師・指導・協力者																							
報償額	なし (詳細裏面)	支払い方法	☐ 講座振込 ☐ 現金(資金前渡)																				
対象者	小学生3年生～20歳	定員数	各日10名 <7日14コマ >	実績人数	5日10コマ 延べ15名																		
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)																				
概要	・空き部屋の利用率を上げる。 ・青少年に学習室の場を提供する。市内北部に個人で学習する場がないため。 ・冬休みの宿題、受験勉強等をする場を提供する。																						
成果	・利用実績が従来と比較しては向上した。 ・熱心に勉強する生徒(高校生)の自習の場の提供ができた。自宅より集中して勉強できるとの感想。																						
自己評価	Dc																						
事業に係る課題・反省点	・「冬休み学習室開放」は、全般的に利用が低調の中にあっても多少、利用が多かった。継続性について、検討の必要がある。 ＊「冬休み学習室開放」について、「夏休み学習室開放」に引き続き、近隣小中(香川小、鶴が台小、鶴が台中、北陽中)の対象全児童・生徒へ(小学3年生～6年生、中学生全学年)チラシを学校を通じ配布した。ただし、配布(2160枚)に対し、実績への反映(効果)は芳しくなかった。 <参考>学習室開放実績 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">夏休み学習室開放</th> <th style="text-align: center;">冬休み学習室開放</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26年度</td> <td style="text-align: center;">7日12名</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td style="text-align: center;">17日35名</td> <td style="text-align: center;">2日 7名</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td style="text-align: center;">17日44名</td> <td style="text-align: center;">2日 4名</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td style="text-align: center;">11日44名</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td style="text-align: center;">25日96名</td> <td style="text-align: center;">5日15名</td> </tr> </tbody> </table>						夏休み学習室開放	冬休み学習室開放	26年度	7日12名	0	27年度	17日35名	2日 7名	28年度	17日44名	2日 4名	29年度	11日44名	0	30年度	25日96名	5日15名
	夏休み学習室開放	冬休み学習室開放																					
26年度	7日12名	0																					
27年度	17日35名	2日 7名																					
28年度	17日44名	2日 4名																					
29年度	11日44名	0																					
30年度	25日96名	5日15名																					

そ の 他

- ・冬休みという特性から利用率の向上は、困難性がある。そうしたなか塾等に行けず、様々な理由で行けない生徒等の学習の場の提供は、公民館で実施する意義は大きい。実績との乖離が課題である。
- ・学習の場の提供とともに、学習支援が出来れば望ましいところではある。

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-7

事業報告書

報告日

平成31年1月26日

担当者

田端 洋

事業名	みんなの経済教室～「おこづかいカレンダー」を作ろう～				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	毎日の生活に欠かせないお金が目に見える「おこづかいカレンダー」を作り、毎月のお小遣いをどのように管理しながら使っていけばよいかを親子一緒に学び、考えることを目的とする。またこれから益々進んでいくキャッシュレス化のなかで、電子マネーを始めとして「目に見えないお金」の与え方、使い方を親子一緒に学び、考えることを目的とする。				
日時	平成31年1月20日（日）13:00～15:00				
場所・会場	香川公民館 講義室				
講師・指導・協力者	早野 木の美さん（神奈川県金融広報委員会金融広報アドバイザー）				
報償額	なし（金融広報委員会負担） （詳細裏面）	支払い方法	☐ 口座振込 ☐ 現金（資金前渡）		
対象者	小学1～3年生とその保護者 3年生は保護者同伴なし可	定員数	13組	実績人数	10組 （子供10名、保護者8名 計：18名）
材料費	なし	材料費用途	— （収支報告裏面）		
概要	1. 「お小遣いカレンダー」を作る前に、「お金の使い方」の話を聞き、お金を使う時は入ってくるお金と出ていくお金のバランスを考えること、買うことを我慢することの大切さ等を学ぶ。 2. 「お小遣いカレンダー」を作る。 3. 保護者に小遣いを渡す時に気をつけること（小遣いで賄う範囲やその渡し方等）、小遣いが足りない時には我慢させること、お金を払う体験は財布から現金で行うこと等説明。 4. 電子マネーやプリペイドカード等目に見えないお金について説明。こうした目に見えないお金もお父さんやお母さんがお金を入金（チャージ）しているから使えるということを説明。				
成果	1. 子供たちは楽しそうに「おこづかいカレンダー」を作っていた。思い思いのカレンダーができ上がり、満足そうであった。 2. 「おこづかいカレンダー」のようなカレンダー方式を使って、子供に小遣いを管理させ、計画的に使えるようにさせたいという保護者が多く見られた。 3. 保護者の多くは、電子マネーやプリペイドカード等目に見えないお金について子供に教えておくことの大切さを改めて認識してもらえたようだ。				
自己評価	Ba				
事業に係る課題・反省点	1. 子供への金銭教育考える時、何かものを作りながら、また何か体験しながらといった子供が興味を持つような趣向を取り入れた内容で講座を企画していきたい。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 30 年度

資料1-8

事業報告書

報告日

平成31年1月26日

担当者

鈴木 弘子

事業名	かめさんのおうち 1月				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	地域における子育て環境は、必ずしも十分だと言えない状況にある。こうした状況の中、地域の家庭教育学習の拠点として公民館の充実が期待されている。 子育ての悩みや不安を一人で抱え込まないよう身近で気軽に利用できる支援の場をつくり、さらには地域との接点の場所として公民館が活用されることを目的として開催した。				
日時	平成31年1月23日（水）10時～13時				
場所・会場	講義室・保育室				
講師・指導・協力者	香川公民館保育ボランティア 川浪恵子・佐藤三沙子・田辺啓子				
報 償 額	6,900円 (2,300円×3名)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対 象 者	乳幼児を持つ親(保護者)とその子ども	定 員 数	40名	実績人数	子ども21名 保護者他18名 (合計39名)
材 料 費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概 要	乳幼児21名（鶴が台保育園児7名含） 保護者 18名（鶴が台保育園職員4名含む） 計39名 （天気：晴れ） 豆講座「救急法」を行う。また、1月から3月までの限定企画で鶴が台保育園から保育士も参加し「一緒に遊ぼう」を行う。 救急法では導入時に、体操や手遊びを行い親子でのふれあい遊びを楽しむ。今回は心肺蘇生法を主におこなう。 保育園保育士と「一緒に遊ぼう」では保育園から手作りおもちゃを持ってきてで一緒に遊ぶ。				
成 果	初めての参加者が多かった。散歩ついでに見に来たという人も誘うと部屋に入り、見学だけと言いながらも、1時間近く過ごしていく。 保育園からの手作りおもちゃではとても遊んでいた。開始時間から間もなくの参加者が少ない時間は保育園児がいたので最初から活気を感じていて良かった。 豆講座の体操や手遊び等は子どもはまだ小さいからと遠巻きにひいていた保護者も保育士の言葉かけにつられ、次第に一緒に体を動かすようになってきた。心肺蘇生法も子どもの心肺蘇生法を主に行ってもらい、とてもわかりやすい説明だった。				
自己評価	Ba				
事業に係る課題・反省点	豆講座と保育士と遊ぼうの二つの企画を入れたので、混乱が生じるかと案じていたが、心配蘇生法を行っている間、保育士と遊んでいる子もいたので、母親は心肺蘇生法に集中できたようだった。保育士が心肺蘇生法の説明をするのは、親の立場に立ち、また状況等も具体的に説明できるので、とてもわかりやすかった。来年度も続けていきたいと覆う。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

A : 定員以上の申し込み
B : 定員の8割以上
C : 定員の半数以上
D : 定員の半数以下

内容に対する評価

a : 充実。次につながりそう
b : 充実。次へのつながりはない
c : やや不十分。
d : 内容の見直しが必要

平成 30 年度

資料1-9

事業報告書

報告日

平成 31年1月19日

担当者

鈴木弘子

事業名	託児ボランティア研修				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	子どもを取り巻く環境、現代社会の在り方、保護者理解、などの情報を得ることで託児ボランティアとしてのスキルアップを目指す。 公民館主催事業「かめさんのおうち」や、講座託児でそれぞれのスキルを活かし保護者や子ども達とより良い関係を築き、利用者が安心して公民館を利用できるようにする。				
日時	平成31年1月19日（土） 10時～12時				
場所・会場	市役所分庁舎6階コミュニティホール				
講師・指導・協力者	茅ヶ崎市教育センター主催事業 講師 遠藤利彦氏				
報酬額	(詳細裏面)	支払い方法	☐ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	かめさんのおうちボランティア	定員数		実績人数	8名
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	テーマ：親は子どもにとっての「安心基地」ー人生の土台を作る 子育て・子育てに大切なことは「アタッチメント」である。アタッチメントにより安全感・安心感ができ自尊心、自己肯定感が育ち、また社会性が育つ。 子どもに安心できる場所（人）があり、自分を受け入れてくれる、愛されていることを実感することで子どもが安心して、安全に行動できる。そして自立へとつながる。 その安心基地は親（家庭）だけではなく、学校や保育園等の家庭を応援する機関も大切であるという話がある。				
成果	受講後、参加者からとても良い内容だったとの感想がある。かめさんのおうちに参加する保護者に対しても今回の学びを伝えていきたい、また参加者自身も見失いがちだったことがらに気づかされたとの感想もあった。子どもが育つということの基本を再確認できる内容だったと思う。				
自己評価					
事業に係る課題・反省点	子どもの育ちにつて大切な事を学ぶよい機会であった。教育センター主催の講座や講演会は複数回開催されており、せっかくの機会なので、今後も参加する機会を持ちたいと思う。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 3 0 年 度

資料1-10

事業報告書

報告日

平成31年2月6日

担当者

森 俊彦

事業名	「大人が楽しむお話会」				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	“おはなし”は、時代を越え先人から伝わってきた人類の宝物といえる。近年、子ども向けのおはなし会は、図書館やコミセン等で開催されることが定着してきた。しかし、大人の方が“おはなし”を楽しむ機会は、なかなかない。“おはなし”は、子どもから大人まで年代を超えて楽しめるものである。人間の生の声で語られる“おはなし”の魅力を多様な年代の方に知っていただき、「読み聞かせ」「すばなし（ストーリーテリング）」を、語り手とのふれあいを感じながら、想像力をふくらませ物語の世界に親しんでもらうことを目的とする。				
日時	平成31年2月3日（日）14時～15時				
場所・会場	香川公民館 集会室大				
講師・指導・協力者	ストーリーテリングサークル「おはなしのたまご」				
報償額	8,000円	支払い方法	☒ 講座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	小学高学年以上	定員数	20名	実績人数	17名
材料費	0円	材料費用途			
概要	5人の語り手が各1話（5分～7分程度）計5話の昔話のストーリーテリング（素話）を行った。語り手は立て又は着座にて行い、対面式でイスに腰掛けた聴衆を前に実演したものである。なお、リハーサルを本番前に順番どおりに司会進行を入れながら、実施した。				
成果	・本事業は、28年度市民提案事業として採択したものを新たに29年度主催事業と位置づけたものである。聴衆（聞き手）が熱心に聞き、大人の方がじっくり、おはなしを聴く機会を得られたことは、貴重で有意義な時間を供与できたことは、事業目的に合致したと考える。ストーリーテリングサークル「おはなしのたまご」の方々も子どもたちへのおはなしは、香川公民館でも何度か行っているなか、大人を前に実演（発表）するのは、自分たちの技術向上に非常に役立っている。 ・アンケートにあるように「大人対象のお話会」は希有のようである。 ・小学校4年生以上を対象としているが5年生2名の参加があり、熱心に聴いていた。				
自己評価	Bb				
事業に係る課題・反省点	・「大人が楽しむお話会」と標題を掲げながらも、対象が「小学4年生以上」としていることに小学生向けと誤解される方が、いらっちゃった。←ミスマッチと感じられる方が、問合せの中で、何人かおられ、「大人の方のためのおはなし会」の趣旨を上手に伝える工夫が必要と感じた。				

そ の 他

・毎回、受付まわり、演台、本の紹介まわりについて、「おはなしのたまご」さんが自宅からの花を雰囲気よくさりげなく飾ってくれた。

・31年度についても同時期に実施することで公民館と「おはなしのたまご」とのなかで合意した。＊「おはなしのたまご」は3月上旬の希望だが、子どもまつり（キッズデー）の時期と重なるので、2月上旬頃とした。

・保育1名（5歳）。←保育ボランティア1名が対応

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

平成 30 年度

資料1-11

事業報告書

報告日

平成 31年2月 10日

担当者

鈴木弘子

事業名	障がい者理解講座 「手話を楽しもう」の復習会				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	昨年度の事業で学んだ手話を同じメンバーが集まり、復習することにより、手話への興味、理解を深める				
日時	平成31年2月10日（日）10時～11時				
場所・会場	香川公民館集会室中				
講師・指導・協力者					
報酬額	無 (詳細裏面)	支払い方法	☐ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	29年度の手話講座参加者	定員数	5名	実績人数	4名
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	昨年度手話講座参加者を対象に復習会を行う。				
成果	参加者 小学2年生1名 中学1年生2名 大人1名 昨年度の参加者のうち、1名は転居のため、もう1名は都合がつかず欠席。 今回は急遽、手話ができる大人1名の参加があり、その参加者が中心になって、簡単な手話で会話をしたり、トランプや色紙を使いゲームを通して手話を楽しむ。前回参加した子ども達はとても進歩していた。				
自己評価	Aa				
事業に係る課題・反省点	参加者はこの1年の間に手話検定を受けたり、他の講座に参加したりと、少しずつでも続けていたことに驚く。そして、これからも続けていきたいと言っていた。 公民館でもっとやってほしいとの希望もあるので、せっかく興味を持った子ども達の思いを大切にしていきたいと思う。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 3 0 年 度

資料1-12

事業報告書

報告日

平成30年11月17日

担当者

志村光一

事業名	キッズバスケット教室（まちのフィットネス）				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	高齢者が利用の中心となっている公民館を多世代が集まる場とするため、 ①子育て世代（子どもが0歳～小学生）子ども同士、また親同士の交流の場づくり、また公民館に来館するきっかけをつくる。 ②子育て世代に教育的なスポーツプログラムを提供する。				
日時	2月16日（土）①9時30分～10時30分 ②10時40分～11時40分				
場所・会場	香川小学校体育館				
講師・指導・協力者	（一社）アステム湘南スポーツソサエティ				
報酬額	¥5,000 （詳細裏面）	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金（資金前渡）		
対象者	①未就学児の親子 ②小学生	定員数	①15組 ②30名	実績人数	①17組 ②1名
材料費	—	材料費用途	— （収支報告裏面）		
概要	キッズバスケット教室（バスケットボールを通して、ボールを投げたり、転がしたり、ドリブルしたりする適切な身体の使い方を学ぶ）				
成果	かけっこ教室、ボール運動教室、なわとび教室に参加していた人が7割以上であった。アンケートでは、全員が満足したと回答した。子育て世代の参加が多く、目的を達成できているといえる。ホームページ申し込みフォームも設定したため、仕事等がある人でも早めの申込みが可能となった。今回はアステム湘南所属の若手選手がコーチを担当してくれたため、子どもたちも親しみやすい様子であった。				
自己評価					
事業に係る課題・反省点	小学生は4名の申込みがあったが、当日参加は1名となってしまった。次年度は未就学児と小学校低学年と一緒に募集をしてレベル別に時間をわける等の工夫をした方が良い。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 30 年度

資料1-13

事業報告書

報告日

平成31年2月17日

担当者

鈴木弘子

事業名	手品教室				
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業				
目標・目的	手品を覚える中で、友だちと協力しあったり、わからない事を講師に聞く等、人との交流を経験する。 得意と思えることがひとつでもできることで自信につなげる。				
日時	平成31年1月19日（土） 2月16日（土）13時～16時				
場所・会場	香川公民館 集会室大				
講師・指導・協力者	指導：市川晴巳さん 協力：和田光一さん・倭文子さん 多田由布さん・多田千恵子さん（市川さん知人）				
報酬額	10,000円 （詳細裏面）	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金（資金前渡）		
対象者	小学生	定員数	10名	実績人数	1/19 7名 2/16 3名 延10名
材料費	300円	材料費用途	ロープ、布等 （収支報告裏面）		
概要	1/19 導入に手品を見る。ロープで手品のタネを作る。輪ゴム、紙テープを使った手品を習う。 2/16 前回作ったロープと絵カードの手品を習う。 2日間で習った手品を繰り返し練習をする。				
成果	時期的なこともあるのか、体調不良での欠席が多かった。 初日は危なげな手つきで、できるようになるのかと心配だったが、2日目は人数が少なかったせいもあると思うが、ひとりひとり丁寧に指導してもらうことができ、子ども達も1日目に教えてもらったことを練習してきた上に練習を重ねたのでとても上手にできるようになった。				
自己評価					
事業に係る課題・反省点	・2日目は参加人数が少なく残念であった。自分でタネを作るという経験もしてほしかったので、ロープを使った手品のタネづくりをしたが、時間も費やしてしまった。簡単な手品を種類多く行い、達成感を味わうようにしたほうが良かったのかと反省する。 ・応募人数が少ないうえ、当日の参加も少なかったが、そのために、一人ひとり、丁寧に指導してもらえた事は良かった。参加人数の決め方が難しいと思った。				

そ の 他

材料費収支内訳 参加者負担金 300円×8名＝2400円
材料費 2656円
講師負担 256円

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-14

事業報告書

報告日

平成30年2月26日

担当者

山田 重乃

事業名	手づくり布ぞうり（講師養成講座　～技術向上フォローアップ～）				
事業計画カテゴリ	6．公民館ふれあい事業				
目標・目的	昔ながらのぞうりを古浴衣で作りで、日本文化継承と古布のリサイクルを学ぶ。と、同時に26年度「布ぞうり講師養成講座」参加者の指導者としてのステップアップと、自分たちの学びを地域の貢献する意識を高める目的で開催。				
日時	平成31年2月22日（金）23日（土）いずれも9時30分～12時30分				
場所・会場	香川公民館　集会室大				
講師養成者兼講師	片野　順子さん 竹田　由美子さん 富田　久美子さん 松尾　智恵子さん 菅沼　松江さん 吉田　紀子さん				
報酬額	なし（詳細裏面）	支払い方法	☐ 口座振込 ☐ 現金（資金前渡）		
対象者	一般	定員数	12名	実績人数	13名
材料費	800円	材料費用途	布　鼻緒　芯（2足分）（収支報告裏面）		
概要	1日目：工程ごとに（布さき→芯かけ→鼻巻→編み→横鼻緒付け→かかと処理→前鼻緒たて）区切り作業を進め1足完成させた。 2日目：鼻緒づくりからはじめ、2本完成後の進捗は全員揃えず、各班の講師にお任せし、2足目を完成させた。最後に参加者全員に感想を発表し解散とした。				
成果	・講師養成講座から4年越しで、自分たちだけで講座指導を行う3回目。夏に開催した布ぞうりで「1足完成できたが先生がいないと作れません」という反省点からのリベンジ講座で、1人でほぼ作れるという参加者が何人か出ることが出来た。 また、参加者の中から講座講師協力者の希望があり、養成講師増員につなげることもでき、次世代への引き継ぎの担い手の育成としての成果もあった。 ・日本の文化と古布リサイクルを学ぶ機会となった。				
自己評価	Aa				
事業に係る課題・反省点	・工程ごとの説明はするが、作業が細かいため実際はマンツーマン指導になっている現状は改善できていない。プロジェクター等を使用し、全員が大きい画面での一斉指導ができれば効率的に講座進行ができ募集人数も増やせる。この講座を継続していくなら、指導方法をブラッシュアップする必要がある。 ・講座参加者の中から、講師協力者につなげていくことが、地域交流や世代間交流、講座向上に効果があるので、新しい人材をさらに増やし活性化していきたい。 ・講座講師希望協力者が、現在の講師の中でスムーズに活動できるよう配慮する必要がある。				

そ の 他

【編み機15台】
寒川町役場生涯学習センターから借用
平成31年2月15日（金）～2月26日（火）

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-15

事業報告書

報告日

平成31年2月24日

担当者

正岡 透

事業名	おやこ料理教室～春色！ おひなまつり楽しい料理				
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業				
目標・目的	おひな祭りが近い二月に、彩りも春色のパーティー料理の料理法を学ぶ。今回の料理教室では日ごろあまり行われなくなっている家事の手伝いや、親と子と一緒に作る、一緒に食べるという体験作業を行う機会とし、併せて料理を作りながら栄養についても考える。				
日時	平成31年2月24日（日） 10時～13時30分				
場所・会場	香川公民館 調理実習室 及び 集会室（大）				
講師・指導・協力者	「母親クラブわかば会」のみなさん 代表 岡崎文江さん				
報償額	15,000円 (詳細裏面)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	小学生の子どもとその保護者	定員数	8組	実績人数	5組 12名
材料費	1人500円	材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	*最初にわかば会の岡崎さんより本日の料理、ちらし寿司、温野菜サラダ、すまし汁、デザート の作り方をレシピに基づき一部は食材を使用しながら説明。 *説明が終わった後、各テーブルに分かれ、わかば会の方が付き扱い、ちらしすしの具から作り始め 温野菜サラダ、すまし汁と各調理台で親子で作リ、ご飯の炊きあがりを待って飯台にすし酢を混ぜて 寿司飯を作りその中に、ゆでて煮ておいた野菜などを混ぜちらし寿司を作り器に分けた後いろどり よく飾り、温野菜サラダ、すまし汁、デザートと出来上がった料理を大の部屋にで全員で運び美味し くいただきました。				
成果	*参加者が5組（12人）と定員に対して7割強にとどまったが各グループとも親の方々が子どもに 食材の切り方を教えながら料理をしており親子の大切な時間となったと思われる。 *家庭ではふだんなかなか親子で料理が出来なく、公民館の講座で親子で出来る講座があり楽しんで 参加しましたの反響もありました。 参加者には楽しんでもらえ、満足してもらえたようであり今後も取り組む事業である。				
自己評価	Ba				
事業に係る 課題・反省点	今回は低学年の参加が多く下準備を心配したが混乱は無くスムーズに事業が実施できた。 おひなまつり料理と限定しないで日程を再考の必要もあるかを感じる。 また、あまりに参加人数を広げると、食器等にも限界があるので、その点も留意し参加受付を する必要があると感じた。				

そ の 他	収入 材料費 参加者×１２名＝６，０００円	
	支出 食材費 調味料、野菜等 ７，３５４円	
	差額▲１，３５４円は協力団体負担	
	成果欄 自己評価 評価基準	
	定員に対する評価	内容に対する評価
	A：定員以上の申し込み B：定員の８割以上 C：定員の半数以上 D：定員の半数以下	a：充実。次につながりそう b：充実。次へのつながりはない c：やや不十分。 d：内容の見直しが必要

平成 30 年度

資料1-16

事業報告書

報告日

平成31年2月27日

担当者

鈴木 弘子

事業名	かめさんのおうち 2月				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	地域における子育て環境は、必ずしも十分だと言えない状況にある。こうした状況の中、地域の家庭教育学習の拠点として公民館の充実が期待されている。 子育ての悩みや不安を一人で抱え込まないよう身近で気軽に利用できる支援の場をつくり、さらには地域との接点の場所として公民館が活用されることを目的として開催した。				
日時	平成31年2月27日（水）10時～13時				
場所・会場	講義室・保育室				
講師・指導・協力者	香川公民館保育ボランティア 川浪恵子・手代木淳子・勝佳子・磯田ひとみ				
報 償 額	8,200円 (2,300円×4名)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対 象 者	乳幼児を持つ親(保護者)とその子ども	定 員 数	40名	実績人数	子ども16名 保護者他12名 (合計38名)
材 料 費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概 要	乳幼児16名（鶴が台保育園児6名含） 保護者 12名（鶴が台保育園職員3名含む） 計28名 （天気：晴れ） 開始直後から保育園児がきたので活気がある。今回は鶴が台保育園保育士が持ち込みで「おひなさまを作ろう」コーナーを行う。年齢の高い子は参加する。 月齢に低いこどもの母親は子どもを寝かした傍らで話をしていた。ボランティアスタッフが高月齢の子どもの遊びにかかわるながら、参加者と話をしている。また参加者同士も話が弾んでいた。				
成 果	保育士がおひなさま作りのコーナーを提供してくれたのだが、参加者の月齢が低かったため、いまひとつ盛り上がりには欠けていた感があった。スタンプ台を使って手形をおしておひなさまにするのだが、スタンプ台の感触を気持ち悪がる子が多かった。このような遊びに慣れている保育園在園児との違いに気づかされたという事であった。感触遊びの大切さが話題になる。				
自己評価	低月齢の参加が多かった。				
	Ba				
事業に係る 課題・反省点	おひなさま作りを通しての話題で感触遊びの少ないことに気づかされた。かめさんのおうちの中でも、このような遊びを提供していくことも必要なかと思った。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

A : 定員以上の申し込み
B : 定員の8割以上
C : 定員の半数以上
D : 定員の半数以下

内容に対する評価

a : 充実。次につながりそう
b : 充実。次へのつながりはない
c : やや不十分。
d : 内容の見直しが必要

平 3 0 年 度

資料1-17

事業報告書

報告日

平成30年3月3日

担当者

森 俊彦

事業名	普通救命講習会(後期)				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	救急車が到着するまでの間、大切な命を救うために応急手当の知識や技術を身につけ、万が一の時に備える。				
日時	平成30年3月3日(日) 9時～12時				
場所・会場	香川公民館 講義室				
講師・指導・協力者	茅ヶ崎市消防署消防指導課職員1名、茅ヶ崎市応急手当普及協会ボランティア2名 計3名				
報 償 額	(詳細裏面)	支払い方法	☐ 講座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対 象 者	一般(中学生以上)	定 員 数	25名	実績人数	9名
材 料 費	なし	材料費用途	なし (収支報告裏面)		
概 要	2班に分かれ(1班は男性3名、女性2名計5名、もう1班は男性4名)、前半は心肺蘇生法、体位回復、休憩を挟み、後半はAEDの使用法、異物除去法、止血法の実技講習を行った。				
成 果	1 受講者のきっかけ(動機付け)も、様々であるが、丁寧な講習ができた(少ない受講者の裏返しもある)。 2 一般的な事故、病気はもとより、近年、自然災害が頻繁に起こっている。こうしたなか、公民館において講習会を開催することは必要である。				
自己評価	Dc				
事業に係る課題・反省点	・前期は受講者(16名)が増えたが、全般的に受講者が少ない傾向がある。業務上必要な方のみならず、まだ受講者したことがない方を含め、その必要性、効果をどのように周知していくかの課題がある。				

そ の 他	・直前の申込みが1名（3月1日）あり、修了証は後日交付することとなった（消防指導課、受講者に確認）。	
	成果欄 自己評価 評価基準	
	定員に対する評価	内容に対する評価
	A：定員以上の申し込み	a：充実。次につながりそう
	B：定員の8割以上	b：充実。次へのつながりはない
	C：定員の半数以上	c：やや不十分。
	D：定員の半数以下	d：内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-18

事業報告書

報告日

平成31年3月2日

担当者

正岡 透

事業名	あそびの広場				
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業				
目標・目的	子どもが安心して楽しく利用できる公民館をめざして、「造形活動」「身体を使ったあそび」「読み聞かせ」を季節とからめて展開。つくることの喜びを体験し、創造的な関心や意欲を育てる。昔ながらの行事や遊びを織り込み伝統継承も行う。子どもの豊かな人間性健やかな成長の支援を目的とする。				
日時	毎月第一土曜日（8月休み）5月及び1月は第二土曜日）				
場所・会場	香川公民館 講義室 保育室 雑木林 テラス 広場				
講師・指導・協力者	ボランティアサークル 「この指とまれ」ほか 代表 星野 貴美子さん				
報償額	¥50,000 (詳細裏面)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	幼児・児童	定員数	10人～30人	実績人数	257人 内 子ども172人
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	4月 7日(土) 作ってあそぼう「タマゴカラーアート」とおはなし会 5月12日(土) 広場であそぼう「ダンボールあそび」 6月 2日(土) 作ってあそぼう「色水あそびと」とおはなし会 7月 7日(土) 作ってあそぼう「七夕かざり」とおはなし会 9月 1日(土) 広場であそぼう「しゃぼん玉あそび」 10月 6日(土) 雑木林でみつけて「集めて！作ろう」 11月 3日(土) 作って食べよう「ぎょうざピザ」 12月 2日(土) 人形劇フェスティバル (別途事業報告済み) 1月 12日(土) 広場であそぼう「むかしのあそび」 2月 2日(土) 作ってあそぼう「おにのめん」とおはなし会 3月 2日(土) 作ってあそぼう「おひなさま」				
成果	①身体を使ったあそび、造形活動、読み聞かせを日本の季節行事とからめながら行い子ども達と楽しいあそびが出来た。 ②ダンボールあそび、シャボン玉あそび、大きい竹に飾る七夕かざりづくりなど家庭の中ではなかなか出来ないあそびも出来、地域に身近な公民館の役割が提供出来た。				
自己評価	Ba				
事業に係る課題・反省点	①次年度はあそびの広場だけでは人集めの限界もあり、子ども事業を土曜日一日にまとめその中であそびの広場の内容を行っていく方向にする。 ②協力サークルこの指とまれの人達にも今までと同じく第一土曜日開催で行うことを伝え協力ボランティアとして参加をお願いする。 ③小学校、幼稚園、保育園行事と重なると参加者が少なくなってしまうスタッフと数人だけという時があり事前に解れば開催日の変更もあってもよいと感じる。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 3 0 年 度

資料1-19

事業報告書

報告日

平成31年3月7日

担当者

志村光一

事業名	キッズデー（子どもまつり）				
事業計画カテゴリ	5. 学習成果の還元事業				
目標・目的	①子ども対象の香川公民館主催事業の発表の場をつくる。 ②次年度の子ども対象の講座、イベントの集客導線をつくる。				
日時	平成31年3月2日（土） 10時～16時				
場所・会場	香川公民館				
講師・指導・協力者	※1				
報償額	※2 (詳細裏面)	支払い方法	☐ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	幼児～小中学生	定員数	※3	実績人数	※4
材料費	なし	材料費用途	なし (収支報告裏面)		
概要	①子どもたちによる主催事業の発表（レッツトライボランティア、紙芝居でボランティア、ペープサート） ②あそびの広場（別起案） ③ドキドキ広場～手品ショーとかみしばい～ ④プログラミング体験～スクラッチでゲームづくり～ ⑤風船バレー（スポーツの仕事を知らうは応募0のため中止） ⑥竹とんぼづくり ⑦ボードゲームで遊ぼう ⑧ペットボトル工作 ⑨クイズラリー ⑩将棋の広場（追加）				
成果	参加者は昨年度より増加した。イベントが定着してきたといえる。発表した子どもたちは熱心に来場者に説明をしていた。学習成果の還元の間としては意義があったといえる。参加した子どもたちは小学校高学年よりは未就学児～小学校低学年が多く、ふだん公民館に来て遊んでいる子どもも見られ、より多様な子どもの居場所を提供できたともいえる。				
自己評価					
事業に係る課題・反省点	参加者は昨年度より増加してはいるが、さらなる参加者の増大が課題である。より、ニーズのあるイベントを同時に開催する必要がある。また、作品の発表などは集まりが少ないものもあった。				

そ の 他

- ※1
 ③ドキドキ広場～手品ショーとかみしばい～
 ⇒紙芝居サークル虹、市川晴巳さん
 ④プログラミング体験～スクラッチでゲームづくり～
 ⇒パソコンボランティア湘南
 ⑥竹とんぼづくり
 ⇒榎本久昭さん、鈴木進さん
 ⑧ペットボトル工作
 ⇒神奈川県地球温暖化防止活動センター
- ※2
 ③ドキドキ広場～手品ショーとかみしばい～
 ⇒5000円
 ④プログラミング体験～スクラッチでゲームづくり～
 ⇒10000円
 ⑥竹とんぼづくり
 ⇒5000円
 ⑧ペットボトル工作
 ⇒10000円
- ※3
 ①子どもたちによる主催事業の発表（レッツトライボランティア、紙芝居でボランティア、ペープサート）
 ⇒50名
 ②あそびの広場（別起案）
 ⇒30名
 ③ドキドキ広場～手品ショーとかみしばい～
 ⇒30名
 ④プログラミング体験～スクラッチでゲームづくり～
 ⇒30名
 ⑤スポーツの仕事を知ろう（別起案）
 ⇒30名
 ⑥竹とんぼづくり
 ⇒30名
 ⑧ペットボトル工作
 ⇒午前午後それぞれ20名
 ⑨クイズラリー
 ⇒50名
- ※4
 ④プログラミング体験～スクラッチでゲームづくり～
 ⇒28名
 ⑤風船バレー
 ⇒8名
 ⑥竹とんぼづくり
 ⇒14名
 ⑦ボードゲームで遊ぼう
 ⑧ペットボトル工作
 ⇒午前16名、午後29名
 ⑨クイズラリー
 ⇒72名
 ⑩将棋の広場
 ⇒10名

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

平成 3 0 年 度

資料1-20

事業報告書

報告日

平成31年3月8日

担当者

志村光一

事業名	お仕事体験クラブ～スポーツの仕事～【中止】（「風船バレー」に変更）				
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業				
目標・目的	小学生の将来の夢ではサッカーや野球などのスポーツ選手が上位となっている。そのような小学生とその保護者にスポーツ選手以外にもスポーツに関する仕事は様々あり、いろいろな選択肢があることを理解してもらう。また、プロのチームに所属しているスポーツ選手はどのようなキャリアなのか理解する。				
日時	平成31年3月2日（土）10時～11時				
場所・会場	香川公民館 集会室大				
講師・指導・協力者	（一社）アステム湘南スポーツソサエティ				
報酬額	¥10,000 （詳細裏面）	支払い方法	☐ 口座振込 ☐ 現金（資金前渡）		
対象者	小学生とその保護者（任意）	定員数	30名	実績人数	0名
材料費	なし	材料費用途	なし （収支報告裏面）		
概要	・プロのスポーツ選手以外にスポーツに関する仕事はどんなものがあるか ・プロのスポーツ選手になるにはどうすればいいのか、プロのリーグなどはどんな仕組みなのか 講義または参加型形式の講座				
成果	本講座は前日までに参加者が0名だったため中止とした。代替えの講座として、風船バレーを行い、8名の参加者があった。				
自己評価					
事業に係る課題・反省点	高校生程度であると自身のキャリアを考える時期であるが、小学生対象では難しい。より体験しながらキャリアを考えることができる講座を設定する必要がある。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-21

事業報告書

報告日

平成31年3月10日

担当者

志村 光一

事業名	プログラミングの広場（下半期）				
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業				
目標・目的	①プログラミング教育は、平成32年度より義務教育課程において必修化が予定されている。プログラミング教育が必修化される前に、プログラミング教育を体験できる場をつくり、コンピューターとは何かを体感できるようにする。②プログラミングは親が習わせたいものの上位にも入っており、プログラミング教育という旬なテーマを選定すること、また月1回の継続開催とすることで、参加する子どもたちが公民館へ継続して来館するきっかけをつくる。ゴールイメージとしては、①子どもたちがコンピューターは自分でいじれるものという意識が芽生えている。②子どもたち同士で教え合っている。状態をめざす。				
日時	10月13日、11月10日、12月8日、2月9日、3月9日 いずれも10時～12時				
場所・会場	香川公民館 集会室大、ロビー				
講師・指導・協力者	NPO法人パソコンボランティア湘南				
報償額	¥20,000 (詳細裏面)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	(スクラッチ) 小学生の親子 (ビスケット) 小学生	定員数	(スクラッチ) 10組 (ビスケット) 8名	実績人数	のべ53名 ※1
材料費	300円 (パソコン・タブレットの持参の人は無料)	材料費用途	パソコン、タブレットレンタル料 (収支報告裏面)		
概要	第6回 10月13日 ビスケットでシューティングゲームをつくろう 第7回 11月10日 スクラッチ、もぐらたたきでタイピング練習 第8回 12月8日 ビスケットでボール崩しゲームをつくろう 第9回 2月9日 スクラッチでクイズゲームをつくろう 第10回 3月9日 ビスケットで音を出そう				
成果	毎回定員を超える申込みがあり、ニーズのある講座であるといえる。複数回参加している方もおり、公民館へ足を運ぶきっかけとなっている。11月からウェブ申込み可能としたが、平均すると半数以上がウェブからの申込みであり、スムーズな受付が可能であった。				
自己評価					
事業に係る課題・反省点	毎回定員を超える申込みがあるため、人数を拡大した方が良いが、Wi-Fiの都合や、講師の人数等の都合により難しいのが現状である。子ども同士で教え合えるような環境ができると良い。また、参加者のレベルが異なるため、次年度は基礎編と応用編に分けて開催する。				

Aa

そ の 他

第6回 10月13日 ビスケットでシューティングゲームをつくろう 8名
第7回 11月10日 スクラッチ、もぐらたたきでタイピング練習 6組12名
第8回 12月8日 ビスケットでボール崩しゲームをつくろう 7名
第9回 2月9日 スクラッチでクイズゲームをつくろう 9組19名
第10回 3月9日 ビスケットで音を出そう 7名

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-22

事業報告書

報告日

平成31年3月10日

担当者

正岡 透

事業名	かがわ健康ウォーク（3月） 江の島めぐり				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	ウォーキングは単に体力をアップさせるだけでなく、仕事や家事、身近な雑事から離れて気分転換を図ることができます。今回は隣の藤沢市江の島めぐりで近隣の史跡や自然を訪ねながら長くウォーキングを続けられるようにする事を目的にします。				
日時	平成31年3月 8日（金）9時00分～13時30分				
場所・会場	藤沢市江の島めぐり				
講師・指導・協力者	江の島・藤沢ガイドクラブ 入山 猛				
報 償 額	4,000円 (詳細裏面)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対 象 者	一般	定 員 数	15名	実績人数	6名
材 料 費	1,000円	材料費用途	1day パスポート代金 (収支報告裏面)		
概 要	*日本の観光地でもある江の島めぐりを行いました、予定していた7日は雨天が予想されたため5日に中止の判断を行い、参加者、江の島・藤沢ガイドクラブに延期の連絡を行いました。 *8日は参加できない方が2人いらっしゃり参加者6名と少人数での江の島めぐりとなったがガイドの方より江の島の歴史がしっかり聞けました。 *9時、小田急片瀬江ノ島駅集合→片瀬江ノ島観光案内所1day パスポート購入 江の島ヨットハーバー→青銅の鳥居→弁財天仲見世通り→エスカー3区間→中津宮 サムエル・コッキング苑→シーキャンドル（展望灯台）→御岩屋道通り→奥津宮→岩屋→御岩屋道通り→解散				
成 果	*開催日を、一日延期したことにより風は冷たかったが晴天に恵まれ江の島展望灯台からの360度のパノラマ、特に富士山、大島、利島、新島まで見えたことには皆さん感動していただいた。 *小さい島だと思っていたのに、ガイドの方より江の島の歴史を詳しく説明され今まで知らなかった江の島がよく解った。 *江戸時代の大山詣りの後、藤沢宿から江ノ島道を歩く時、庚申塔が数か所にあり江の島にもあり目印にしながら歩いた江戸時代のことを想像できた。				
自己評価	Da				
事業に係る課題・反省点	*雨天延期の判断を2日前に行ったことで、参加者は少なくなったが開催日を1日だけにするか予備日をもうけて行うか今後の課題である。 *今回はエスカーを使い歩行距離を短くしたが、健康ウォークは歩きが基本であり募集段階で山道、坂道がしっかり歩ける方とPRが必要と感じた。				

そ の 他	参加費 一人 1.000円×8人＝8.000円 1dayパスポート購入代	
	成果欄 自己評価 評価基準	
	定員に対する評価	内容に対する評価
	A：定員以上の申し込み B：定員の8割以上 C：定員の半数以上 D：定員の半数以下	a：充実。次につながりそう b：充実。次へのつながりはない c：やや不十分。 d：内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-23

事業報告書

報告日

平成30年11月18日

担当者

正岡 透

事業名	お米をつくろう&さつまいもも作ろう				
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業				
目標・目的	私達が、毎日主食で食べているお米、お米はどのようにして作られているのでしょうか。お米づくりを田植えから雑草取り、稲刈りとお米づくり八十八日間を水田で体験して農業への理解を深め農業者との交流、茅ヶ崎産農産物の茅産地消を促進することを目的とします。 さつまいもは、水田近くの休耕畑を借り苗の植え付けを行いつる返しを行った後さつまいも掘りを行います。				
日時	平成30年4月28日（日）～11月17日（日）までの日曜日、9回				
場所・会場	茅ヶ崎市萩園水田・畑・香川公民館				
講師・指導・協力者	石井 政幸				
報償額	30,000円 (詳細裏面)	支払い方法	☒ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	小学校4年生以上の家族	定員数	15家族	実績人数	10家族
材料費	一家族、3000円	材料費用途	種もみ、さつまいも苗、肥料等 (収支報告裏面)		
概要	第一回 4月28日（土曜日）スケジュール、水田&畑場所、体験内容などを公民館で説明 第二回 5月27日（日曜日）さつまいも苗植え 第三回 6月17日（日曜日）水田田植え 第四回 7月15日（日曜日）水田雑草取り 第五回 8月19日（日曜日）水田雑草取り&さつまいもつる返し 第六回 9月16日（日曜日）水田雑草取り&ちつまいも試し掘り 第七回 10月7日（日曜日）さつまいも掘り 第八回 10月14日（日曜日）稲刈り 第九回 11月17日（日曜日）振り返りとお米の分配 他、畑などでバーベキュー、芋煮会				
成果	*昨年お米を作ろうに参加された2家族と今年新たに8家族を加えた10家族でさつまいもの苗植えを最初に行い6月に入り田植えを行った、田植えの様子はハーモニアス茅ヶ崎で放送されお米を作ろうの事業がPR出来た。 *7月、8月、9月の炎天下の中の、ひえ、雑草取りを行い水田の中にはいろんな小動物がいて稲には害虫のジャンボタニシの赤い卵も初めて見た。 *10月に入りさつまいもの収穫では苗の植え方によって芋の大きさが違うことが解った。 *稲刈りは鎌を使い行いあの小さな苗からお米になる過程が行ってみてよく解った。 *脱穀、もみすりは農家が行ってくれ、玄米を精米し11月17日に銘柄キヌヒカリを、土鍋と電気がまを使い炊き上げ食べ比べをしましたが土鍋のお米が美味しいとの評価でした。 *アンケートにも、半数以上次年度も行いたいとの声があり次年度は水田と近くの休耕畑を借り水田はお米、畑には野菜作りを行いたい。				
自己評価	Ca				
事業に係る課題・反省点	*会社に勤めている方がほとんどで、説明会以外の活動日を日曜日に設定したが日曜日は子どもや地域行事もあり土曜日にも活動する日を設けても良かったと感じた。 *さつまいもの試し掘りと水田の雑草取りは一緒の日ではなく日にちをずらした方が効率が上がリ疲れも少なくなる。 *今年も農家の方に稲刈り後脱穀、粳摺りまで行っていただいたが水田で行う作業はお米をつくろうのメンバーで行う必要がある。				

裏面につづく

そ の 他	日程	内容	参加人数	延べ人数
	4月28日 土曜日	スケジュール、水田場所、内容説明	10家族 21人	21人
	5月27日 日曜日	さつまいも苗50本植え	8家族 18人	39人
	6月17日 日曜日	水田、田植え	9家族 26人	65人
	7月15日 日曜日	水田雑草取り	6家族 11人	76人
	8月19日 日曜日	水田雑草取り&さつまいもつる返し	6家族 15人	91人
	9月16日 日曜日	水田雑草取り&さちまいも掘り	6家族 16人	107人
	10月7日 日曜日	さつまいも掘り	5家族 12人	119人
	10月14日 日曜日	稲刈り	6家族 21人	140人
	11月17日 土曜日	お米分配と振り返り	7家族 18人	158人
	10月29日 月曜日	石井さん お米脱穀	石井さん 家族	
	10月31日 水曜日	石井さん お米粃摺り	石井さん 家族	
	成果欄 自己評価 評価基準			
	定員に対する評価		内容に対する評価	
	A：定員以上の申し込み B：定員の8割以上 C：定員の半数以上 D：定員の半数以下		a：充実。次につながりそう b：充実。次へのつながりはない c：やや不十分。 d：内容の見直しが必要	

平成 30 年 度

資料1-24

事業報告書

報告日

平成31年2月24日

担当者

山田 重乃

事業名	かがわ乳幼児健康相談				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	乳幼児の健やかな心身の健康と発達を支援を目的とし、身体測定、栄養相談、育児相談を個別に行う。 また、母親への育児における助言と茅ヶ崎市の子育て支援事業の周知を行う。				
日時	原則偶数月の第2木曜日13時30分～14時30分受付 平成30年4月12日（木）6月14日（木）8月9日（木）10月11日（木）12月13日（木）平成31年2月14日（木） 全6回				
場所・会場	香川公民館 保育室				
講師・指導・協力者	茅ヶ崎市保健所健康増進課 保健師 栄養士				
報酬額	(詳細裏面)	支払い方法	☐ 口座振込 ☐ 現金(資金前渡)		
対象者	乳幼児とその保護者	定員数	フリースペース	実績人数	163名 (詳細下記)
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	こども育成相談課と共催。茅ヶ崎市保健師、栄養士が個別に相談業務、身体測定を行い、乳幼児の健康をサポートする。また母親の育児支援を行う。				
成果	乳幼児の心身の健やかな健康と発達のために効果があった。また母親への助言等で育児支援に成果があったと考える。 平成30年 4月12日（木）乳幼児12名 保護者12名 6月14日（木）乳幼児11名 保護者10名 8月9日（木）乳幼児12名 保護者8名 10月11日（木）乳幼児16名 保護者14名 12月13日（木）乳幼児19名 保護者18名 平成31年 2月14日（木）乳幼児16名 保護者15名				
自己評価	(合計) 乳幼児86名 + 保護者77名 = 163名				
事業に係る課題・反省点	・市や地域団体等の子育て支援の催し物チラシをピックアップし、会場内に置くことを実行した。 茅ヶ崎市事業周知のため次年度も継続していきたい。 ・香川公民館にある乳児身長計は使い勝手が悪いとのことで、保健所健康増進課持参の計測計を使用する。				

そ の 他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要